

令和8年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 実施計画書

活動団体の本事業での活動テーマ

『サステイナブルツーリズムを取り入れた
滞在型観光の促進—環境・観光・子育て
教育・定住を統合した取り組み』

活動団体の活動地域：北海道豊富町

活動団体名：豊富町観光協会

中間支援主体名：北海学園大学

参加団体の基本情報

(1) 活動団体の基本情報

団体名	豊富町観光協会
活動地域	北海道豊富町
専門性・強み	
豊富温泉、湯治、サロベツ湿原、酪農地帯、涼夏	

団体概要
<p>豊富町観光協会は、豊富町を中心とする地域の観光宣伝及び観光客誘致促進等に努めることにより、観光産業の健全な発展を図り、併せて地域の産業経済の発展に寄与することを目的として活動している。</p> <p>主な観光地は、利尻礼文サロベツ国立公園に指定されたサロベツ湿原、源泉に油分を含みアトピーに効能がある豊富温泉、壮大な牧草地帯が広がる大規模草地などである。2024年に「ヘルスツーリズム認証」を取得したことにより、健康増進を推進する道内の企業が、福利厚生などとして豊富町や豊富温泉を利用しやすくなるよう取り組みを進めている。</p>

(2) 中間支援主体の基本情報

団体名	北海学園大学
活動地域	札幌市
専門性・強み	
総合大学、北海道最大規模の私立大学、地域貢献	

団体概要
<p>北海学園大学は5学部、6研究科に学生・大学院生が在籍する総合大学である。</p> <p>北方共創圏研究センターは、約70年の歴史を持つ旧開発研究所の後継組織として2026年4月に設置された。共創とは、様々な利害関係者と協働し、新しい価値を生み出すことである。本センターは蓄積してきた様々な学問分野の研究を生かし、地域の多様な課題の解決と持続可能な地域づくりを「共創」していく中間支援組織の役割を担うことを目指している。</p>

活動団体と地域の紹介



活動団体の目指す地域の姿【R8当初計画】

■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

ありたい地域の姿は、子どもたちがワクワクする地域を築き、継承していくことである。地域課題を克服する視点は、①**観光産業の拡大と閑散期の解消**によって雇用の創出、地域資源を活かした地域経済循環の強靱化、②**コミュニティでの対話の場づくり**、③**教育や子育て**において外部からの刺激により、子どもたちの地元愛を育む、である。

■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

町内には、本事業に関わる観光や教育子育ての分野において、事業者やNPOなどの「点」は20～40程度存在している。**とよとみワクワクの会のイベント開催**を通じて、これらの「点」を「面」に広げていく。将来的には地域おこし協力隊制度等を活用し、活動団体内部（または外部）に**コーディネーター**を設けることを目指す。

■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

本事業のイベントやワークショップ等での議論から生み出されていくものである。活動団体が実現したい事業は、豊富町との関わりを深めてもらい、また、住民にとっても持続可能な地域づくりにつながる、**地域活動への参画や交流等を行うプログラムの企画運営**である。

■ 地域の現状と課題

豊富町は、急速に進展する少子高齢化や地域の人口減少、経済の縮小という過疎問題に直面し、地域課題の解決に向けて地域産業の創出と維持発展が欠かせない。主要産業の観光業は**通過型観光**であり、宿泊者数の増加、冬期の閑散期の解消が課題である。

その打開策が、地域資源を活かした**ワーケーションや湯治といった滞在型観光**の潜在的な掘り起こしである。地域資源には、アトピーに効果があるとされる豊富温泉や雄大なサロベツ湿原などの自然資源、様々な分野で活躍しているヒトや団体があり、地域循環共生圏の素地は十分に有している。

(参考) ローカルSDGs 事業の紹介

テントサウナイベント

【概要】

日本最北の温泉郷である「豊富温泉」は大正15年5月17日に開湯し、令和7年を以って99周年を迎えた。

この記念日を迎えるにあたり、前年度事業で開催したワクワクとよとみ未来会議およびインターンにて豊富町に滞在した大学生より、豊富温泉でテントサウナを活用したイベントを実施し、地域活性化につなげていきたいとの提案のもと開催した。

また、豊富町の豊かな森林資源を活用し、テントサウナで薪を使用し発生する暖炉エネルギー（自然再生エネルギー）への知見を深めることや、サステナブルツーリズムの取組へと昇華させることを目的とした。



【段階】試行・試験

【実施時期】2025年5月、2026年3月

【活用している自然資本・地域資源】

- ・豊富温泉地の活用
- ・サウナストーブ燃焼のため枯れ木等の森林資源を活用

【事業により生じたor 生じそうな成果】

- ・豊富温泉での新たな体験、滞在型商品の造成による来訪者増加や滞在日数の増加等経済効果の上昇
- ・自然エネルギーの活用等による知見を深める教育への活用等

今後の展望

春と冬にテントサウナを実施した経験を活かして、次年度は夏に海岸で実施を予定している。

大学生の地域インターンシップ

【概要】

昨年度に続き、大学生の地域インターンシップを実施した。学生には、豊富町の主産業、生活、教育について体験・理解をしてもらい、若者の感性を活かした多種多様な観点からアイデアを生み出してもらい、地域づくりへ活かしていくことを目的とした。今年度は札幌と大阪より7名が参加した。

今年度のインターンシップ先は、温泉旅館、牧場、公設学習塾、ネイチャーガイドなどであった。また、観光や教育を中心に地域事業者や関係団体へ学生によるヒアリング調査を実施した。12月に、学生は、調査レポートを町長へプレゼンし、町の総合戦略の見直しでの政策情報として提供した。



【段階】施行・試験

【実施時期】2025年9月

【活用している自然資本・地域資源】

- ・サロバツ湿原や牧草地などの自然公園、景観
- ・国内唯一の油分を含んだ豊富温泉

【事業により生じたor 生じそうな成果】

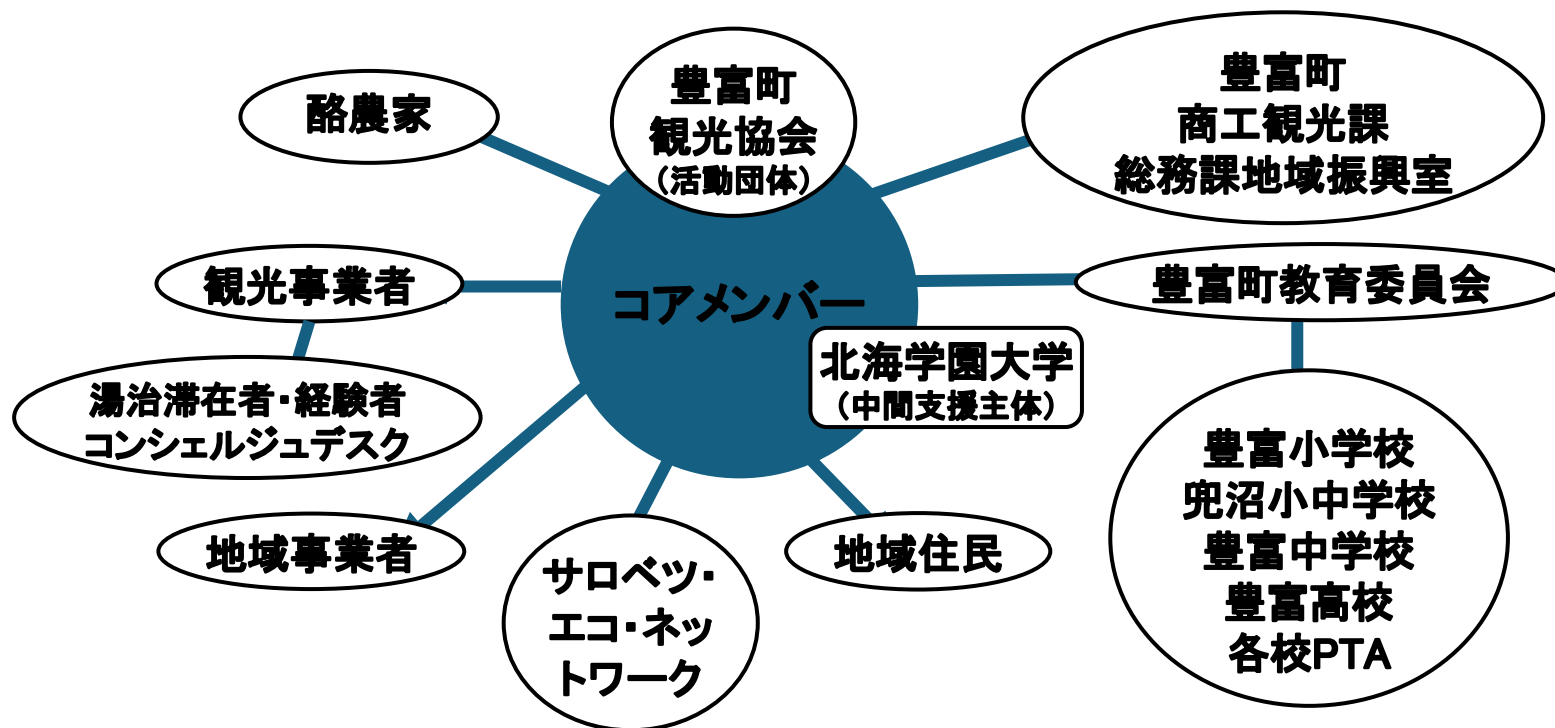
- ・都市部の大学生の滞在中で、子どもや住民に活気が生じた
- ・新たな定住支援策となりうる

今後の展望

若い大学生との交流は地域に活気が沸き、今後も継続した実施を地域住民から求められた。次年度は、参加学生にプロジェクトの企画を検討してもらい、事業のタネの具体化を目指していく。また、地域インターンシップの内容をブラッシュアップして新たな観光プログラムに仕上げていきたい。

(参考) 現状の地域プラットフォーム

- 地域プラットフォームには、豊富温泉やサロベツ湿原などの観光事業者、飲食業や酪農業などの地域事業者、小中高校の教育関係者、子育てサークル、役場の担当者などが参加している。
- 参加者の大半は30~40歳代であり、現役の子育て者が多い。また、男女比がほぼ均等である。
- 中間支援主体には、北海学園大学の教員と大学生が参加している。



地域プラットフォーム

活動地域:北海道豊富町
作成者(団体名):上園(北海学園大学)
作成日:2026年3月13日

(参考) 現時点のマングラ

ありたい未来

子どもたちがワクワクする地域を築き、継承していくこと

成果

住民と大学生の交流・対話 / 地域の課題や魅力を共有 / アイデア事業化

取組

「ワクワクとよとみ未来会議」の開催 / 大学生「地域インターンシップ」

地域課題

少子高齢化と人口減少
中学・高校卒業後に離郷者が多く戻らない
魅力がある職が少ない
通過型観光（滞在型観光の増加）

地域資源

豊富温泉（アトピー湯治治療）
サロベツ湿原、壮観な景勝地（大規模草地、利尻富士）
酪農、乳製品の六次産業化（バター、ジェラート、スコーン）
多方面の活躍するヒト

地域版マングラ

活動地域: 北海道豊富町
作成者(団体名): 上園(北海学園大学)
作成日: 2026年3月13日

3カ年状態目標

■ 2027年度末の状態目標

【活動団体】

- ・ 大学生等が参加するサステイナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業を継続させる。
- ・ プラットフォームに参加しているステイクホルダーのつながりを維持・発展させ、地域循環共生圏づくりを継承していく。

【中間支援団体】

- ・ サステイナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業の継続に向けて支援を継続していく。
- ・ 大学教育として中間支援者の育成プログラムを運用していく。

■ 2026年度末の状態目標

【活動団体】

- ・ 大学生等が参加するサステイナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業を実施する。
- ・ プラットフォームに参加しているステイクホルダーのつながりを維持・発展させ、地域循環共生圏づくりを継承していく。

【中間支援団体】

- ・ サステイナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業の実装に向けて支援を継続していく。
- ・ 大学教育として中間支援者の育成プログラムを引き続き検討していく。

■ 2025年度末の成果と振り返り

【活動団体】

- ・ サステイナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業をとよとみワクワク未来会議で検討し、テントサウナを2回実施した。また、プラットフォームに参加しているステイクホルダーのつながりを発展させ、4回の未来会議で地域循環共生圏づくりを検討した。

【中間支援団体】

- ・ サステイナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業の実装に向けて、円滑な遂行を支援した。
- ・ 大学教育として中間支援者の育成プログラムを検討した。

今年度の状態目標に向けた取組内容【R8当初計画】

- これまでの歩み、成果や課題などを踏まえ、今後、プラットフォーム形成・運営のために、今年度優先的にチャレンジしたいアクションサイクルを記載ください。(最低3つ記載ください。)

	優先する アクションサイクル	いつまでに実現するか	実現のために何をするか	実現のために必要なこと (ヒト/モノ/カネ/仕組み/ 機能等々)
①	大学生等が参加するサステイナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業の実施。	2026年度内	大学生の地域インターンシップを継続し、ワークショップや打合せなどで住民や関係者と意見交換する。	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生の地域インターンシップ受け入れ先との調整 ・SNSを活用しサステイナブルツーリズムをとり入れた活動を発信する。
②	プラットフォームに参加しているステイクホルダーとの繋がりを維持・発展させ、地域共生圏づくりを継承していく。	2026年度内	行政と連携のもと地域おこし協力隊制度の導入・活用へ向けた体制づくり。	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富町役場（行政）と「地域おこし協力隊制度」の重要性について議論する場を設ける。
③	ローカルSDGs事業の創出	2026年度内	「とよとみワクワク未来会議」を継続することで豊富町の子どもたちが未来をワクワクできるように町民を巻き込み課題解決に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に豊富町内で「とよとみワクワク未来会議」を開催し、地域課題を町民全体で考え解決策を見つけ出す機会を設ける。
④				

中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

■ 中間支援主体の1年間の支援目標

活動団体の豊富町観光協会は、適切な支援を得られると、異分野の教育・子育ての要素を絡めて滞在型観光の活動を拡げていく可能性を有している。今年度も「ワクワクとよとみ未来会議」や「大学生の地域インターンシップ」を継続し、ワークショップや打合せなどで、住民や関係者と意見交換・交流して、地域で解決すべき課題や要望を抽出し、企画立案を支援していく。1年後には、地域活動への参画や交流等を行う「サステナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光」の事業を具体化させることを目指す。

■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	本事業に関わる担い手は町内に「点の状態」として多数存在している。課題は「面の状態」に拡張するための仲間づくりであり、まずは率直な意見交換の場を設定し、プラットフォームを形成していくことが必要である。	「ワクワクとよとみ未来会議」を今年度も継続して実施していく。大学教員などが学習会やワークショップで必要な知識や情報を専門的な知見を提供する。また、「未来会議」では、参加者間の意見交換を円滑に進めるために、ファシリテートを行う。
②	地域には大学がないため、日常で大学生がいない。地域社会が、若者の発想や感性、よそ者の意見を取り入れることで、新たな刺激を生む可能性がある。とくに、大学生が交流することで、子どもたちの視野が広がり、物事の発想が豊かになる可能性がある。	昨年度と同様に、夏休みの時期に大学生の「地域インターンシップ」を実施していく。豊富町の主産業・生活・教育について体験し、若者の感性を活かした多種多様な観点からアイデアを生み出し、地域づくりへ活かしていく。
③	地域活動への参画や交流等を行う「サステナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光」の事業のタネを具体化し、ローカルSDGs事業を創出する必要がある。	一昨年度の「ワクワクとよとみ未来会議」で出されたアイデアを活かして、「テントサウナイベント」を開催する。地域の主体と大学生が協働することで、新たな事業のタネを見つけ、事業の創出につなげていく。

中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての本事業を通じた獲得目標とそのための具体的なアクション

大学が中間支援者として提供できる機能は、1) 大学教員がもつ専門性やノウハウを地域社会に提供すること、2) 地域社会とのコーディネートや橋渡し役を担うこと、3) 大学生（北海学園大学など）を派遣し地域体験へ従事させること、4) 大学生を将来の中間支援者に育成することの4つを考えている。

今年度の活動では、昨年度までの経験を活かして、1-3)の機能をより効率的・効果的な成果が出せるように内容を改善させていく。4)については、大学で体系的な教育プログラムを開発するように北海学園大学内で検討を進める。

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

中間支援主体としては、上記の4つの機能を獲得し、大学の特性を活かして地域づくりへ貢献していきたいと考えている。

本事業に関わる専門性はオーダーメイドで対応する必要があるため、関連の先進例の調査によるノウハウを蓄積し、実践的な知見の提供を目指す。また、大学生が、中間支援者を現場で担えるように教育・指導し、未来の中間支援者を養成していく人材育成プログラム開発を目指す。

この事業を通じて中間支援機能を獲得し、豊富町で研究と大学教育の実践の場として継続的にサポートしていく。そして、地域資源を活かした地域課題の解決、人をつなぐ役割を他の自治体でも実施し、地域循環共生圏づくりに貢献していく。

活動・支援スケジュール【R8当初計画】

■スケジュール

	4月	5	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラットフォーム構築のための取組【活動団体】			◆第9回未来会議の開催				◆第10回未来会議の開催		◆第11回未来会議の開催			
ローカルSDGS事業創出に向けた取組【活動団体】			◆テントサウナの開催			◆大学生の地域インターンシップ受入（9月）						
中間支援主体の支援・取組計画		◆イベントでのファシリテーター役と講師の提供 ◆関係先との調整、協力依頼		◆派遣大学生への面接と事前説明				◆地域づくりの視察				

備考（補足説明など必要な場合は記載）